

廣峯ものがたり（二月）
素戔鳴尊と鬼神

「災厄祓い」

姫路の書寫山、増位山、広嶺山には、圓教寺、隨願寺、廣峯神社があり、神仏靈場の「ひめじ三山」と呼ばれています。

この三山に共通していることと言えば、悪鬼（災厄）を追い払う正義の鬼がいるということ。一般に鬼というと災いをもたらす悪者のイメージがありますが、この三山では、神仏が恐ろしく力強い鬼の姿に化身して、悪鬼（災厄）を追い払い、人々を救うという信仰が古来より続いています。

廣峯神社では、二月三日から四日の昼夜を通して行われます「節分・立春厄除大祭」にて、御神殿の中に素戔鳴尊の神使である赤鬼・青鬼の御面を飾ります。



また、二月三日の節分祭では、宮司さんが「鬼は内、福は外」と福豆をまきながら掛け声をかけられています。

なぜ？そのような掛け声なのですかとお尋ねすると、廣峯の大神様が巷で悪さをしている悪鬼を捕らえてご本殿に封じ込まれ、皆さんに幸福を授けられるからですよと教えていただきました。

なるほど、正義の鬼神が災厄を祓い、人々を幸せにしてくれるということなのかと思いましたが、この節分・立春厄除大祭の期間中は、前厄・本厄・後厄にあたる女性の三十二歳〜三十四歳の方、男性の四十一歳〜四十三歳の方、大厄にあたる還暦の男女の方々が厄除祈願に参拝されています。